

高屋の貴船神社には、二柱の神様が祀られています。

- 1、祭神：高たか竈かみ神と猿田彦大神
- 2、猿田彦大神

◎猿田彦大神は、ものごとの最初に御出現になり万事最も善い方へ

“おみちびき”になる大神で、古事記、日本書紀などにも「国初のみぎり天孫をこの国土に御啓行（みちひらき）になられた」と伝えられています。大神は天孫をおみちびきの後、伊勢の地を本拠として国土の開拓を指導され、垂仁天皇の御代に皇女倭姫命が神宮鎮座の地を求めて諸国を巡歴されたときに、大神の御裔（みすえ）の大田命（おおたのみこと）が祖神、猿田彦大神と同じく御先導され、五十鈴川の川上一帯の霊地を御献上、伊勢の神宮の御創建に尽くされました。大神の子孫は宇治土公（うじのつちぎみ）と称し、以来、永く玉串大内人（たまくしおおうんど）という特殊な職掌に任ぜられ、伊勢の神宮に奉仕してきました。

参考）天孫降臨（てんそんこうりん）とは、日本神話において、天孫である邇邇藝命（ににぎのみこと）が、天照大神の神勅を受けて葦原の中つ国を治めるために高天原から日向国の高千穂峰へ天降（あまくだ）ったこと。邇邇藝命は天照大神から授かった三種の神器をたずさえ、天兒屋命（あまのこやねのみこと）などの神々を連れて、高天原から地上へと向かう途中、猿田毘古神（さるたひこのかみ）が案内をし、邇邇藝命は筑紫の日向（ひむか）の高千穂に降り立ったという、『記紀（古事記と日本書紀）』に記された日本神話である。

◎大神の御神徳を仰ぐ崇敬者は全国に広く、方位除、地祭、土地開発、開業、災除、家業繁栄、交通安全、病氣平癒、開運、進路進学開拓、などの御祈禱が連日行われています。

- 3、高屋の貴船神社では、いつ頃のことか定かではありませんが、上記の猿田彦大神を勧請して、二つの神様を祀り始めました。
- 4、高屋には、4世紀末には白鳥古墳が造られ、さらに古代山陽道が通っていたとも言われていますし、白鳳時代（天武天皇の時代・6世紀末7世紀初頭）には、巨大神殿が建立されていました。白鳥古墳内には、三種の神器と同種の副葬品が埋葬されていました。その古墳の上に、日本武尊を主神とする白鳥神社が建てられています。現在東広島市中央図書館に展示されがています。巨大神殿跡は、西本6号遺跡と言われ、現在のあすかパーク内の公園にその跡が残されています。その後、高屋は朝廷の食糧をつかさどる大炊寮の荘園「高屋保」として、朝廷・京都とのつながりの強い地域となります。
- 5、高屋は、瀬戸内式気候区内にあり、もともと降水量の少ない地域ですが、入野川周辺の低地では、地下の岩盤が浅く雨が降れば水田はザブ田状態になり、それより少し高い丘陵地では、水不足を補うために溜池が多く作られています。昔から、水には苦勞していた地域です。
- 6、このようなことから、高屋の地では、「水の神様」と「道を切り開く神様」を大切に祀ってきたこともなんとなく理解できるようです。